

厚生労働省・実践型地域雇用事業
「人が集い、町がにぎわい、仕事を創り、町を育む」
～びらとり町民チャレンジプロジェクト～
人材育成メニュー



歴史と文化に携わる アイヌ文化ガイド養成講座

実施日

2018年7月13日(金) 13:00～15:00

テーマ

6日目「アイヌ文芸講座」

講師

平取アイヌ文化保存会 藤谷 るみ子 氏

先住民族としてこの地に身を置くアイヌの方々にとって歌や踊り、現代に口頭文芸として伝えられる伝承もその文化を象徴する物のひとつと言える。本日はその中でも数少ない楽器であるムックリについて学ぶ講座を開催していただくことになった。アイヌの方々にとっては歌や踊りにおいても楽器を取り入れることは少ない。ムックリは口琴楽器ではあるが元々の起源を辿ると男性が思いを寄せる女性に対して渡し、これに応えようとするとき女性がムックリを鳴らすのだという。愛の告白のための道具であった。素材は竹で当時からこの地には存在しなかったが、内地の和人との交易によって材料を手に入れていたようだ。鳴らし方にもコツがいる。起源となる風習のためからか、ほとんどは女性の方が扱っていることが多い。良く響くようにならせるためには持ち方や口の形、息づかいにも調整が必要である。ムックリの扱い方を学んだ後、それを持ち歩いたり、大切に保管するためのムックリケースを参加者と共に作り上げた。魔除けとしても伝えられているアイヌ文様を刺繍して講座は終了した。現代においてはそれぞれの民族の文芸というものには「見世物」として価値をみようとする方は多い。しかし民族文化にとってはそのひとつひとつにストーリーがあり、魂が込められていることを忘れてはならないと改めて感じた。

